

令和六年度 入学者選抜学力試験問題 国語(前期・教育) 解答例

二

問一 ア 偽                    イ 遡及                    ウ 幾多                    エ 垣間                    オ 粗茶

問二 人間は、動物と同様に音やアルファベットの確率情報によって単語を切り分けるだけでなく、助詞の統計情報によって単語の品詞を見極めることができる。

問三 子どもが言語習得の過程で行っているような、知識が新たな知識を創造し、洞察を生み、洞察が知識創造を加速する、帰納推論とアブダクション推論の混合のこと。

問四

(本文中にない具体例を用いた解答例)

「この家ではほりがあるのは納戸だけである。この猫はほりだらけである。ゆえにこの猫は納戸からきた。」を考えると、たしかに納戸にいたらほりが見つかるだろうが、この猫は隣の家でほりをまとってきたのかもしれないのだから、この推論は正しい答えにたどり着いているとは言えない。

(本文中にある具体例を用いた解答例)

①「この袋の豆はすべて白い」ことと②「これらの豆は白い」ことから、②の由来を③「これらの豆はこの袋から取り出した豆である」と推論することは可能であるが、それが唯一の答えではなく、「白い豆が入った別の袋から取り出した豆である」可能性もあるため、この推論は常に正しいとは言えない。

問五 ピッチャー、キャッチャーという人の役割名が、みな「ツチャー」という形で終わるといふ事実から、帰納推論によって、すべての役割名は「ツチャー」で終わると一般化し、それをバッターという役割名に適用したことによる誤りだから。

問六 「車のごはん」

ごはんとガソリンという全く違う二つのものが、〈取り込むことで、また元気に活動できるようになる〉という機能の類似性を持っていることを用いた推論による誤りだから。

令和六年度 入学者選抜学力試験問題 国語（前期・教育） 解答例

二

問一 (a)完了の助動詞「り」連体形 (b)打ち消しの接続助詞「で」 (c)意志の助動詞「む」「ん」終止形

問二 A 現代においては、うまく詠もうと心がけることをどうしてとがめたりするであろうか

B 万葉集の頃であつても、皆が守らねばならない規則といったものこそなかったが、

問三 《イ》《ウ》《カ》

問四 I 古風の歌をよまん人

II 耳慣れない奇妙な詞を選んだり、一首の中に古い詞と新しい詞とを混ぜて詠んだりせずに、万葉集などの古い歌の中でもよいものを手本として学び、古い時代の和歌の決まり事に従い、用語を選び韻律や形式を整えて端正な歌を詠むべきである。

三

問一 遊、流、州、愁、頭（二句目末、二句目末…などでも可）

問二 紅袖佳人

問三 自分が十五年前に座興として作った詩が、はるか通州の地にまで伝わっていた事に驚く気持ち。

問四 昔は紅袖の佳人をして唱はしめ、今は青衫の司馬をして愁へしむ

問五 十五年前の前途洋々たる時と、左遷された現在の落差を悲しむと共に、その詩が書き付けられたのが、うらぶれた川べりの館である事に、一層の悲哀を感じる気持ち。